

平成 30 年度 令和元・2 年度 水戸市教育委員会研究指定

笠原中学校区 施設分離型小中一貫教育に関する研究

研究紀要（3 年次）

研究主題 他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒の育成
－ 各校・各学級におけるリーダーの育成を通して －



令和 2 年 3 月

水戸市立笠原中学校

水戸市立寿小学校 水戸市立笠原小学校

目 次

1	主題	1
2	主題設定の理由	1
3	研究のねらい	1
4	研究の計画	2
5	具体的な取組内容	2
	(1) 組織づくり	2
	(2) 研究主題と「4つのプロジェクトとの取組」との関係	2
	(3) 令和2年度研修計画	3
6	研究の実際	4
	(1) 学習プロジェクトの取組	4
	(2) 心プロジェクトの取組	8
	(3) 体プロジェクトの取組	14
	(4) 教職員協働プロジェクトの取組	17
7	研究の成果	20
8	研究の課題	23

資料

- 資料1 笠原小中学校区小中一貫教育プロジェクト別系統表及び年間計画表
- 資料2 学習プロジェクト教科別系統表
- 資料3 2年次中間発表会「心プロジェクト」授業案
- 資料4 3年次Web会議の流れ
- 資料5 体カテスト自己分析カード
- 資料6 小中一貫ランドデザイン

1 主題

他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒の育成

ー 各校・各学級におけるリーダーの育成を通して ー

2 主題設定の理由

近年、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきた。このような時代を生き抜く子供たちは、直面する様々な変化を柔軟に受け止め、主体的に学び続け、多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていかなければならない。

このような「生きる力」の育成のためには、同じ地域で過ごす児童生徒の小中学校9年間の学びと育ちを見通し、地域のよさや目指す児童生徒の姿を小中の教員・保護者・地域が共有しながら、つながりをもって見守っていくことが必要である。

笠原中学校区は、笠原小学校（797名）と寿小学校（635名）の児童のほとんどが笠原中学校（641名）に進学する2小1中の学区である。5年前から「小中合同夏季研修会」を開催し、教科の研修や児童生徒情報交換を行うなど、小中連携を行い、小中一貫教育の基盤を作ってきた。しかし、施設分離型であり、教職員がいつでも顔の見える関係であるとはいえない。平成30年度児童・生徒の実態調査から、笠原中学校区の課題は、自己肯定感の高揚と学力の向上であると考えた。あたたかい人間関係を基盤として、主体的に学び、確かな学力をつけ、自信をもって生き抜く児童生徒の育成が保護者や地域の願いである。小・中学校それぞれが、地域の特性を生かし育てきた学校風土を基に、学びが分断されることなく、児童生徒を育成していく小中一貫教育の必要性を感じている。

平成30年度から、水戸市教育委員会研究指定校として、水戸市小中一貫教育「まごころプラン」に基づき、施設分離型小中一貫教育を進めてきた。1年次は、笠原中学校区の全職員が、顔の見える関係を作り、目指す児童生徒の姿を共有することを大切にしてきた。2年次には、学校や地域とのつながりを大切にしながら、計画的・系統的に進めていく小中一貫教育を目指し、各校のリーダーを育成してきた。そして、3年次、9年間の学びに系統性をもたせ、各校のリーダーを核として、各学級において発達段階に応じたリーダーの育成を目指してきた。この3年間の取組の積み重ねを通して、他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒が育成できるのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究のねらい

他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒を育成するための小中一貫教育の具体的な方策を計画・実践・検討する。具体的なプロジェクトは次の4つである。

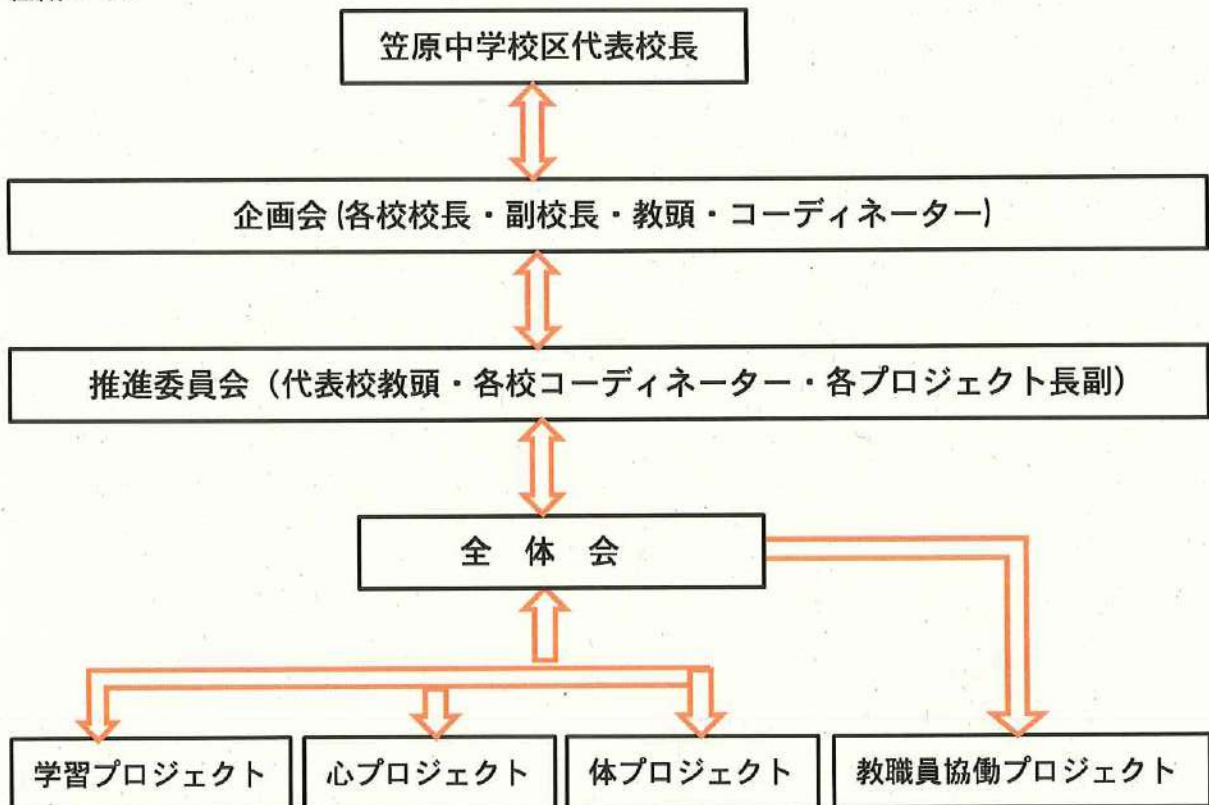
- (1) 小中合同で授業改善や出前授業等を行い、児童生徒の主体的な学びを支援し、9年間を見通して学力の向上を図る。
(学習プロジェクト)
- (2) 児童生徒の手による小中協働の活動を通して、9年間を見通して小中のリーダーを育成するとともに、規範意識や自己肯定感を育み、あたたかい人間関係作りのできる児童生徒を育てる。
(心プロジェクト)
- (3) 小小・小中の交流を通して、9年間を見通して体力の向上を目指し、目標をもってあきらめずに努力する児童生徒を育てる。
(体プロジェクト)
- (4) 教職員の顔の見える関係を作り、合同研修や相互授業参観、情報発信・共有を行い、9年間を見通して児童生徒の育成を図っていく。
(教職員協働プロジェクト)

4 研修の計画

- 〈1年次〉 笠原中学校区合同研修会を通して、教職員間の連携と共通理解を図り、各プロジェクトにおいて今後の研究の方向性を探る。
- 〈2年次〉 「3校合同リーダー会議」で笠原中学校区における課題から共通の取組を明確にし、各校のリーダーを核として、学校ごとに実践し、各校のリーダーを育成する。
- 〈3年次〉 各校の代表委員会の組織づくりを見直し、「3校合同リーダー会議」で話し合ったことを、校内で実践していくための、各校、各学級における新たなリーダーを育成する。

5 具体的な取組内容

(1) 組織づくり



(2) 研究主題と「4つのプロジェクトの取組」との関係について

- ① 基本的には、4つのプロジェクト（児童生徒：【学習】【心】【体】，教職員【教職員協働】）の活動を、笠原中学校区小中一貫教育の柱としていく。
- ② 【心】プロジェクトでは、「各校・各学級におけるリーダーの育成」が3年次の課題となることから、3年次の取組の《重点》として扱う。
- ③ 【学習】【体】プロジェクトでは、中学校と小学校の連携中心に、他者と協働し、主体的に学ぶ児童・生徒の育成をめざす。
- ④ 【教職員協働】プロジェクトでは、児童生徒が活動する【学習】【心】【体】を動かす教職員のサポートと、保護者・地域との連携の推進者として位置付ける。「教職員の協働による資質向上」と「保護者・地域との連携」をめざす。

(3) 3年次研究計画

月	内容・方法等
4	○第1回企画会, 推進委員会の実施(14日)→研究主題, 計画の検討 (21日実施) [心]第1回小中リーダー会議(25日)→第1回Web会議, テーマ (5月実施)
5	[心]第1回小中交流あいさつ運動の実施(11日) (中止)
6	○第2回企画会, 推進委員会の実施(8日)→進捗状況確認 (7月実施) [心]各校・各学級による話し合い, 実践 [教]第1回3校合同アンケートの実施(下旬) (7月実施)
7	[心]第2回小中交流あいさつ運動の実施(1日) (2日実施) [心]第2回小中リーダー会議(6日)→第2回Web会議, 進捗状況 (12日実施) [学]笠原中ESS部による小学校訪問(中止) [学]中学生学力向上サポーター派遣(22~26日) (中止)
8	[心][学][体]小中リーダー研修会(5日:少年自然の家), (中止) [教][学][体][心]全体研修会並びに4プロジェクト分科会の実施(6日) (7月実施) ○第3回企画会, 推進委員会の実施(14日)→基調の検討, 修正 (中止)
9	[心]第3回小中交流あいさつ運動の実施(2日) ○第4回企画会・推進委員会の実施(8日)→研究発表会の内容検討 [教]第2回3校合同アンケートの実施(中旬) (11月実施)
10	[教]3校合同引き渡し訓練(27日) (中止) [体]中学生による小学生陸上指導(笠原小…24日 寿小…23日) (中止) ○第5回企画会, 推進委員会の実施(12日)→研究発表会の内容検討, 準備 (推進委員会のみ) ・地域の方とクリーン作戦(中止) [心]第4回小中リーダー会議(5日)→第3回Web会議 (8月実施) [教]小中相互授業参観(計画訪問日に実施)
11	[心][体]新入生ガイダンス(4日)…説明会+部活動体験(中止) [心]第4回小中交流あいさつ運動の実施(1日) (4日実施) [体]ケーズデンキスタジアム持久走記録会実施(寿小10, 笠原小17) ○第6回企画会, 推進委員会の実施(9日)→研究発表会のリハーサル, 内容修正(中止) [心]第5回小中リーダー会議(9日)→リハーサル(中止)第4回Web会議実施
12	○施設分離型小中一貫教育3年次発表会(20日)→発表会后, 反省会(紙面発表へ変更) ・明るい街づくり発表(3校リーダー5日) (中止)
1	[心]第5回小中交流あいさつ運動の実施(15日)
2	○第7回企画会の実施(9日)→今年度のまとめ, 次年度に向けて [心]第6回小中リーダー会議(8日)→第5回Web会議, 次年後に向けて [教]第3回小中一貫教育アンケートの実施 [学][心][体][教]各プロジェクトによるまとめ, 次年後に向けて

6 研究の実際

(i) 各プロジェクトの取組

① 学習プロジェクト

○ 学力の向上

・学び合いを通して、主体的に学ぶ児童生徒の育成

【1, 2年次の取組】

ア 学習指導の統一

学習指導の統一については、3校合同研修会で、現在の取組について交流し、課題を出し合い学習統一が図れそうな共通の取組について話し合った。(資料1)

資料1 学習指導の統一検討事項

	課 題	共通の取組
国 語	・書くこと ・語彙を豊かにすること	・辞書を一人一冊用意し、机の脇にかけておく ・語彙ノートを用意し、調べた語彙を蓄積しておく
社 会	・基礎的・基本的な知識の定着を図ること	・小テストを実施していく ・資料を読み取る活動を意図的に取り入れていく
算 数	・ノートの使い方の統一 ・振り返りの統一	・小テストを実施していく ・資料を読み取る活動を意図的に取り入れていく
理 科	・ノートの使い方の統一 ・振り返りの統一	・視点をもった振り返りの記述の仕方の統一 わ…分かったこと が…がんばったこと と…友達から学んだこと も…もっとがんばりたいこと
音 楽	・音楽用語などの知識が足りないこと	・小学校の頃から楽譜に親しんでいく ・読譜指導の工夫をしていく ・ワークの活用、小テストを実施していく
図画工作 美 術	・新学習指導要領、評価についての共通理解を図ること	・明るい街づくりでの絵画作品の展示を行う
英会話 英 語	・T1, T2の役割について統一すること ・小学校で身に付けるべきことの共通理解を図ること	・始めと終わりの挨拶はHRTが行う ・All Englishで授業を行う

イ 中学生ESS部小学校訪問

ESS部小学校訪問では、笠原中学校のESS部の生徒が、小学校を訪問し、英会話の授業に参加をした。中学生が挨拶の後に自作の本を英語で読んだり、一緒にゲームをしたりして、小学生の児童も楽しむことができた。(資料2)

資料2 笠原中ESS部小学校訪問（左、笠原小 右、寿小）



ウ 中学生学力向上サポーター

夏休みに入ってすぐ行われた学びの広場に、それぞれの小学校出身の中学生が学力向上サポーターとして参加した。1年次は、部活動などの調整が難しく参加できなかったが、2年次は各校数名が参加することができた。身近な中学生が教えに来てくれたことで、小学生も親しみを持ち、意欲的に取り組む姿がみられた。（資料3）

資料3 中学生学力向上サポーター（左、笠原小 右、寿小）



【3年次の取組】

学習プロジェクトでは、平成30年度から各校の課題の把握と共有をし、学習指導の統一が図られる共通の取組について話し合ってきた。3年目になる令和2年度には、教科ごとに3年間の課題を共有し、その達成に向けて小中9年間を通して一貫性のある学習ができるように、「9年間で育成したい力」を身に付けられることを目標にして系統表を作成した。小中の教員で達成できるための手立てを検討する時間を設けたことで、小学校6年間で学ばせなければならないことや、中学校の学習に役立つことなどの情報を共有することができ、日常的・継続的に教科指導に活かすことができた。（別資料2：学習プロジェクト教科別系統表参照）

エ 国語の授業における辞書の活用について

「育成したい力」

辞書を効果的に活用し、言葉の意味と使い方を知り、学習や生活の中で活用する力を育成する。（資料4）

「共通事項」

中学年…辞書用のバックを全児童共通にする。

高学年…辞書を一人1冊用意し机の脇にかけることで、日常的に言葉を調べられるようにする。

中学校…語彙力を高めるために身近に辞書がある環境を心がけ、活用を図れるようにする。

（資料4）

資料4 笠原小 辞書用バック 寿小 辞書引きの様子



オ 語彙ノートを活用について

「育成したい力」

各領域において知りたい言葉や使いたい言葉、大切な言葉を調べ、書き留めた様々な言葉を生活や学習に活かし、人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げられる力を育成する。(資料5)

「共通事項」

低学年…語彙ノートを活用して簡単な単語を書き写すことに挑戦できるようにする。

中学年…辞書を使って、分からない語彙を語彙ノートにまとめられるようにする。

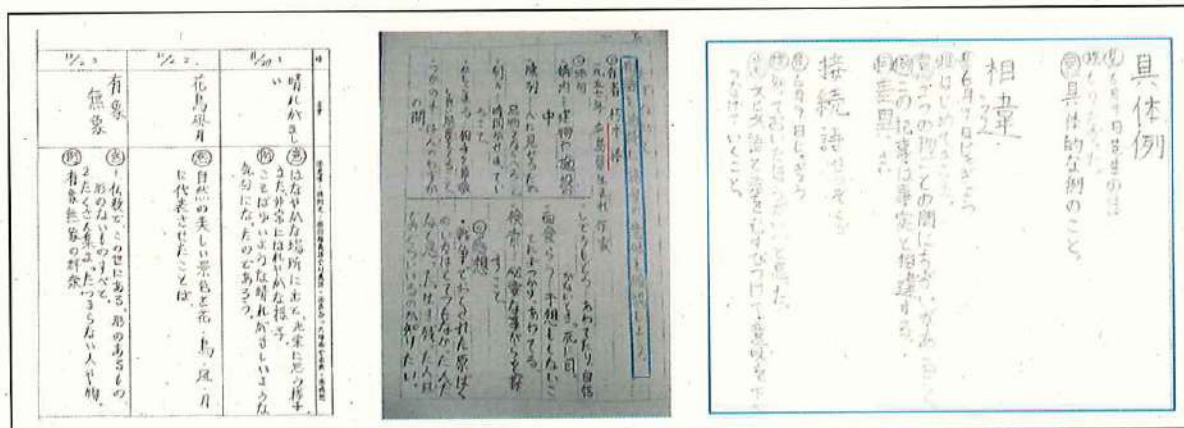
高学年…辞書を使って、分からない語彙や国語的用語を語彙ノートにまとめられるようにする。

中学校…調べた言葉や意味が分かりにくい言葉などをワークシートにまとめA4ファイルに綴じこめられるようにする。

資料5 笠原中語彙ノート

笠原小語彙ノート

寿小語彙ノート

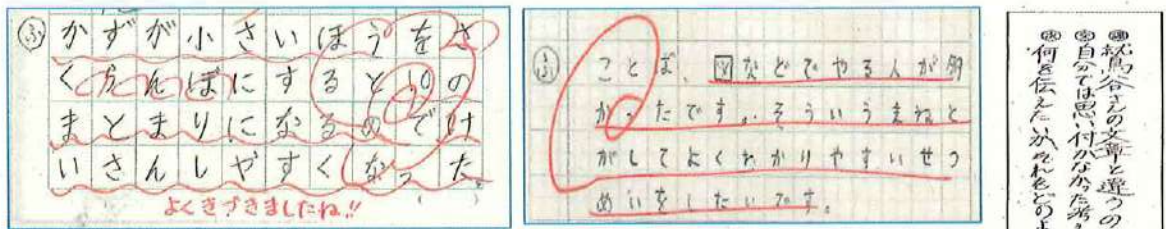


カ 視点をもたせた振り返りの実施

始めは理科で小中連携のノートづくりに取り組んでいたが、教科の枠を広げて、各教科の授業の中で振り返りの習慣化を図った。

「課題への振り返り」「他者と協働して学んだことへの振り返り」「次時の学習への意欲」等の視点をもたせた振り返りを行うことで、授業の中で自分が学んだことを確認できるようにした。また、振り返りを教師が見取ることで、授業改善へとつながった。(資料6)

資料6 授業の振り返り（左から 笠原小，寿小，笠原中）

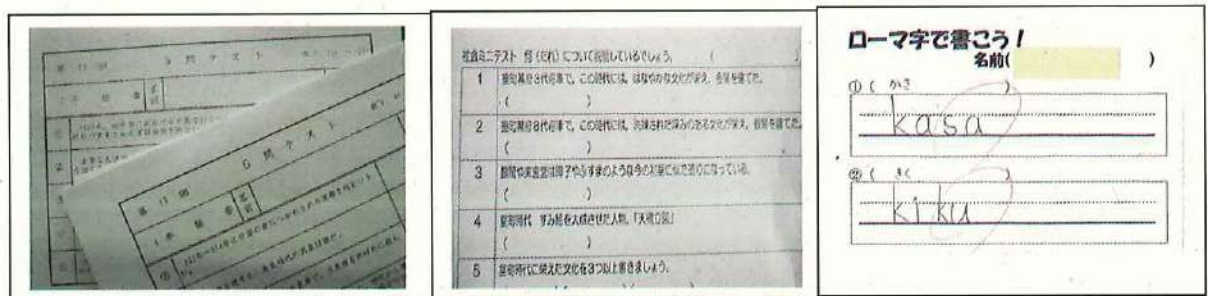


キ ミニテスト，ワークシートの共有

基礎・基本の知識の定着を図り，学力向上を目指すために，朝の時間や授業の始めの時間を使って，ミニテストを実施した。小中連携の例としては，社会科の都道府県の問題では，小学校中学年から中学校3年生までを通して，継続して同じ内容を行っていくことで，確実な知識の定着と習熟を図った。

また，作成したワークシートを共有することで，教師の業務の効率化を図りながら，学力向上に取り組んだ。（資料7）

資料7 ミニテスト（左から，笠原中，笠原小，寿小）



ク 中学校美術教員の小学校出前授業

小学校の絵画指導に，笠原中学校の美術の教員が笠原小・寿小で出前授業を行った。中学校の美術の先生が指導に来てくれることを6年児童に伝えると，緊張した面持ちではあったが，いざ授業を受けてみると，細かな技法だけでなく，「なぜ，その場所を選んだのかの理由も考えることが大事」と絵画を描く前の心構えなども聞くことができた。中学校の先生との関わりをもつことで，中学校へのつながりもでき，中学校進学への思いも高まった。（資料8）

資料8 絵画指導の様子（左から笠原小，寿小）



② 心プロジェクト

- あたたかい人間関係づくり
 - ・主体的に課題解決に取り組む児童生徒の育成

【1, 2年次の取組】

ア 小中交流あいさつ運動

小中交流あいさつ運動では、登校時に笠原小学校の児童が中学校の正門前で中学生と一緒にあいさつ運動を行ったり、笠原中学校の生徒が、寿小学校の正門前で小学生と一緒にあいさつ運動を行ったりし、交流を深めることができた。(資料9)

資料9 小中交流あいさつ運動 (左から笠原中, 笠原小, 寿小)



イ リーダー研修会・リーダー会議

リーダー研修会では、小中学校それぞれの代表の児童生徒が集まり、「笠原中学校区をよりよい街にするため」の話合いを行った。1年次には、すぐに実行できる案として、黙働清掃が挙げられ、各校で工夫を凝らした取り組みが行われた。2年次には、挨拶が課題として挙げられ、学校内だけではなく、地域の人に挨拶をするには、地域の人ともっと交流を深めていくことが必要だという意見も挙げられた。そこで、リーダー会議を繰り返し行い、各学校で実践していった。3校合同のリーダー会議では、各校の取組を報告したり、質問したりしながら、中学生がリーダーシップを発揮し、話し合うことで考えを深めることができた。(資料10)

資料10 リーダー研修会

リーダー会議

2年次3校合同発表会



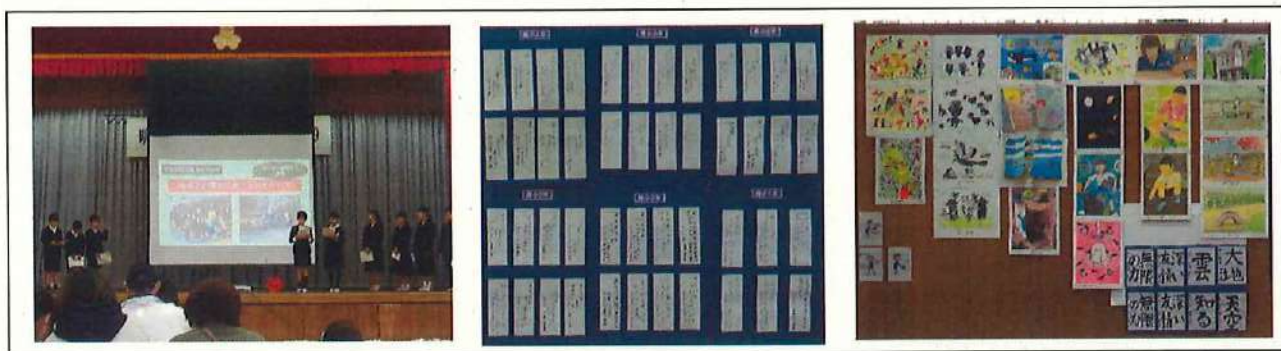
ウ 明るい街づくりでの発表

3校合同で取り組んできたことの発表を笠原中学校区青少年育成会「明るい街づくりのつどい」で行った。学校で取り組んでいることを、各校のリーダーが発表することで、地域の方々にも学校での取組を理解してもらう良い機会となった。また、明るい街づくりの標語だけではなく、各校の書写や絵画、標語を展示することで、地域との交流や学校間の交流を図ることができた。(資料11)

資料11 小中一貫の取組の発表

標語掲示

作品展示



【3年次の取組】

エ リーダーの育成（Web会議の実施）

これまで、笠原中学校区は、施設分離型であるため、リーダーが会議を行う際の、移動の手段や、時間・費用の調整など、会議の持ち方については、課題があった。しかし、今年度は、感染症予防のため、「Meet」や「Zoom」を利用したWeb会議を実施した。2年次までの課題であった、移動時間や移動手段などが解消され、話合いの回数も増え児童生徒も始めは戸惑っていたが、回数を重ねるごとに話合いにも慣れ、進んで質問する姿がみられた。今年度は、校内での小さなリーダーを育成していくために、校内でも話合いを行い、互いの学校で実施している取組を報告し合い、よさを認め合いながら、自校の活動に生かせるようにしていった。(資料12)

資料12 Web会議を行っている様子(左から笠原中, 笠原小, 寿小)



オ 各校、各学級のリーダーの育成

(ア) 笠原中学校の取組

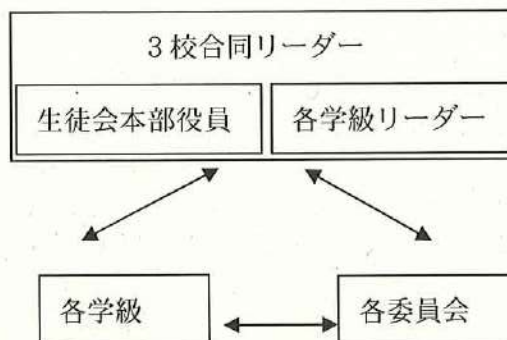
○ 組織について

- ・ 3校合同リーダーは、生徒会本部役員と各学級から選出された代表生徒により組織される。(資料13)
- ・ リーダーは男女問わず、各学級1名程度とした。

○ 校内リーダー会議の取組

- ・ 3校合同リーダー会議で話し合った議題を、校内リーダー会議でさらに具体的に話し合い、各学級に伝えるようにした。そして、各学級でリーダーを中心に、それぞれ話し合いを行い、再び校内リーダー会議で意見を持ち寄るようにした。(資料14)

資料13 笠原中組織図



資料14 校内リーダー会議の様子

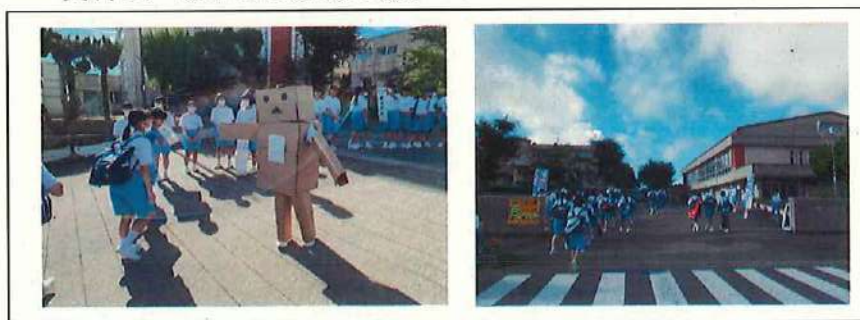


○ 各学級の取組

1 工夫したあいさつ運動を行う

以前から続けてきたあいさつ運動に一工夫することで、よりよいあいさつ運動になるように意識して取り組んだ。具体的には、正門にクラス全員で八の字に並び、出口であいさつができるようにしたり、段ボールでキャラクターを製作し、あいさつ運動を行ったりするなどして、工夫する様子が見られた。(資料15)

資料15 あいさつ運動の様子

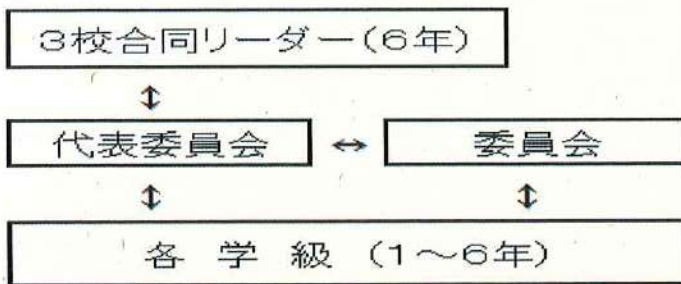


2 一日一善を見つける活動

普段の生活の中で、友達のよいところを見つけるために、一日一善運動を行った。自分がよい行動を心がけることはもちろんだが、友達がどんなよい行動をしているかを見つけ、生活ノートに記録し、帰りの会等で発表できるようにした。

(イ) 笠原小学校の取組

資料 16 笠原小組織図



○ 代表委員会の方針について

- ・代表委員は、学級の代表としてふさわしい児童、学級のリーダーとなりえる児童を選出する。
- ・学級内のリーダーを男女問わず育成する観点から、男女合計3名とする。「男子2名・女子1名」または「男子1名・女子2名」とする。(資料 16)

○ 代表委員会の取組

3校合同リーダー会議での議題について、笠原小代表委員会で活動内容について話し合いをもち、委員会だよりの発行や校内放送を通して全校児童に発信し、情報の共有化を図った。また、議題によっては、各学級で話し合いの時間を設定し、取り決めたことを実践した。(資料 17)

資料 17 代表委員会での様子



○ 各委員会各学級の取組

1 工夫したあいさつ運動を行う

(1) いろいろな国の言葉で挨拶をしよう

毎月実施しているあいさつ運動の中で、「おはようございます」だけではなく、「グッドモーニング」「アンニョンハセヨ」「ボンジーヤ」など、いろいろな国の言葉で挨拶するように委員会だよりの発行や校内放送で呼び掛けた

2 一日一善を達成する

(1) 感謝の気持ちを伝えよう作文。

笠原小学校の創立記念日に向けて、各学級代表が学校自慢や笠原地区のよさを放送で作文発表した。

(2) 笠原小に感謝の気持ちを伝えよう

笠原小や地域の方々に感謝の気持ちを伝えるために、何ができるのかを学級ごとに話し合い実践した。

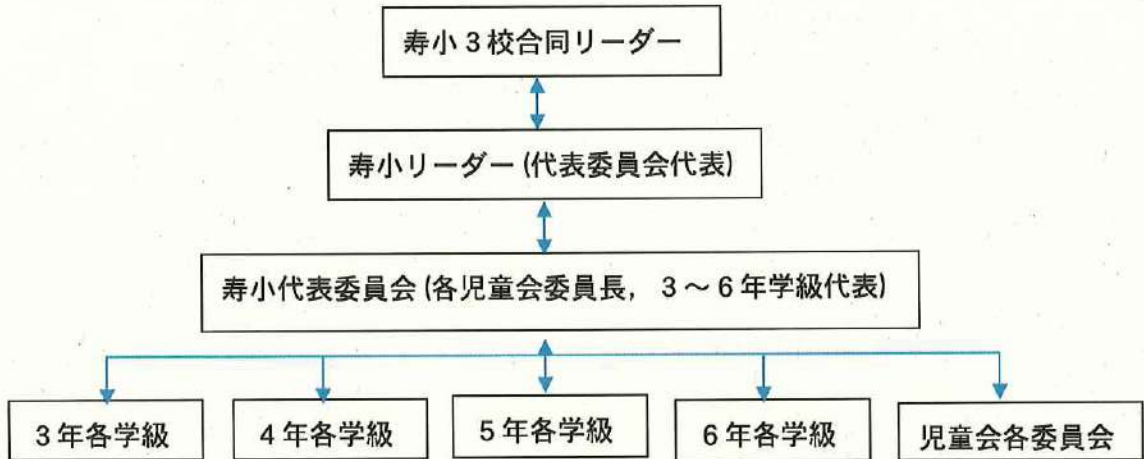
1年	ピカピカ大作戦・学校ものを大切に使う・黙働清掃をする
2年	黙働をしっかりとる・挨拶をする
3年	マスクをつけて校歌を歌う・遊具のそうじ・黙働清掃・挨拶
4年	草取り・ものを大切に使う・落ち葉やゴミ拾い
5年	手洗いやうがい・大掃除・緑を増やす・授業で3回挙手
6年	学校のまわりのそうじ・かべの汚れ落とし・遊具そうじ

(ウ) 寿小学校での取組

○ 代表委員会の組織の変更

学校のリーダーを育成するために、代表委員会のメンバーを、児童会企画委員会だけではなく、各委員会の委員長や3～6年生の代表児童で構成した。(資料18)

資料18 寿小3校合同組織図



○ 代表委員会の取組

3校合同リーダー会議から下りてきた議題を、寿小リーダーが代表委員会で、各学級や委員会に。下ろし、決められた日時までに、各委員会や各学級で話し合いを行うよう伝える。

そして、各委員会や各学級の代表委員はそれぞれに話し合いを行い、その結果を、代表委員会にもって集まる。この活動を繰り返すことにより、学校のリーダーだけでなく、各委員会や、学級のリーダーも育てていくと考える。(資料19)

資料19 代表委員会の様子



○ 各委員会、各学級の取組

企画委員会からは、「寿レンジャーによるあいさつ運動の呼びかけ」や、ふれあい委員会の「あいさつ運動」、環境・美化委員会の「黙働の呼びかけ」、各学級からは、「一日一善頑張りカード」「よいことボックス」などのアイデアが出されるなど、様々な取組が行われた。(資料20)

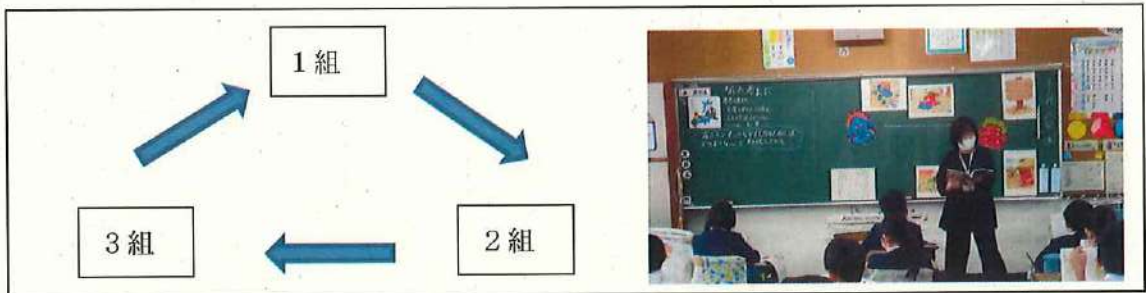
資料20 各委員会・各学級の取組の様子



カ ローテーション授業を取り入れた道徳教育の実施

担任一人だけではなく、多くの教員が各学級に関わり合い、道徳教育が行えるようにした。また、同じ単元を何度も授業することができるため、指導法の修正を行ったり、授業後に他の担任と情報交換をしたりできるなど、授業力の向上を図ることができた。(資料 21)

資料 21 ローテーション道徳の様子



キ 人権教育の取組

寿小学校から人権教育担当教員が笠原小学校へ出向き、職員研修を行うなど、小小連携を行っている。これにより、各小学校で人権について同じ指導ができるようにしている。また、人間関係づくりのための構成的グループエンカウターの研修など、各校で取り組んでいる人権教育の内容について情報交換を行い、共有しながら指導を行っている。(資料 22)

資料 22 人権メッセージ、明るい街づくりの標語の掲示（左から、笠原中、笠原小、寿小）



ク まごころタイムの取組

(ア) キャリアパスポートを用いた指導

今年度から、「いばらきキャリアパスポート」の資料の蓄積が始まり、笠原中学校区では、3校で同じ形式のキャリアパスポートを用いて、学年ブロック毎に色分けをし、9年間の自分の成長の記録をまとめ、引き継いでいけるようにした。学校行事や学期の始めや終わりの記録の他に、体力テストの分析なども綴り込んでおくようにした。中学校では、これを基にして、中学校で進路指導等に活用できるようにしている。(資料 23)

資料 23 キャリアパスポート



③ 体プロジェクト

○ 体力の向上

- ・ 目標をもって運動に主体的に取り組む児童生徒の育成

【1, 2年次の取組】

ア 中学生による小学生陸上指導

小学生にも分かるよう丁寧に説明や模範を示す中学生の姿が見られた。また、身近な中学生が指導をすることで児童のモチベーションも高まり、その後の練習では、主体的に練習に取り組む児童の姿が見られた。(資料 24)

資料 24 中学生による陸上指導 笠原小(左) 寿小(右)



イ 小学6年生の中学校部活動体験

児童が希望する部活動を2つ選択して、部活動体験を行った。各部の中学生が優しく声かけをしてくれたこともあり、小学生も安心して活動することができた。短い時間であったが集中して取り組み、充実した体験になった。(資料 25)

資料 25 部活動訪問



ウ 3校共通サーキットトレーニング

体力の向上を図るために、3校共通トレーニングのメニューを作成し、体育の時間に取り入れた。トレーニングの目的を児童生徒にしっかりと伝えることで、主体的に取り組む児童生徒の姿が多く見られた。(資料 26)

資料 26 3校共通サーキットトレーニング(左から、笠原中、笠原小、寿小)



エ 小学校間での校内持久走記録会の記録情報交換

校内持久走記録会では、小学校間で低学年・中学年・高学年ブロックの距離を統一し、記録会を実施した。小学校間で記録の交換をしたことにより、各学年や個人の持久力の比較と、児童一人一人の体力向上に向けた意欲付けを図ることができた。(資料 27)

資料 27 陸上記録会の情報交換

学年	1(300m)		2(600m)		3(1000m)		4(1000m)		5(1300m)		6(1300m)	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
笠原中	2:15.00	2:30.00	4:30.00	4:45.00	8:00.00	8:15.00	10:00.00	10:15.00	11:30.00	11:45.00	13:00.00	13:15.00
笠原小	2:10.00	2:25.00	4:25.00	4:40.00	7:55.00	8:10.00	9:55.00	10:10.00	11:25.00	11:40.00	12:55.00	13:10.00
寿小	2:12.00	2:27.00	4:27.00	4:42.00	7:57.00	8:12.00	9:57.00	10:12.00	11:27.00	11:42.00	12:57.00	13:12.00

【3年次の取組】

オ 体力向上トレーニングの共同開発・実施（ランニングトレーニング）

体力向上を図る手段として、体育の時間にランニングトレーニングをサーキットトレーニングと併せて行った。学年に応じて300m～600m程度の距離を全力で走ることで、持久力を主とする走力を養うものである。短い時間に集中して走ることで、走ることが苦手な児童生徒も、しっかり最後まで走ろうという意欲が見られた。また、体育の活動内容によってサーキットトレーニングとランニングトレーニングのどちらかを行うことで、時間的負担も少なく、かつ、バランスよく体力の向上を図ることができた。(資料 28)

資料 28 ランニングトレーニングの様子(左から、笠原中、笠原小、寿小)



カ 小学校持久走記録会，ケーズデンキスタジアムでの開催

笠原小学校、寿小学校では、昨年度まで、距離を合わせて記録の交換を行っていたが、今年度は、どちらもケーズデンキスタジアムで開催した。今年は陸上記録会が中止となったため、6年生にとっては、貴重な経験となった。(資料 29)

資料 29 持久走記録会の様子(左：笠原小 右：寿小)



キ 体カテストの分析・活用

○ 自己分析ワークシートの活用

自己分析ワークシートを活用し、昨年度の県の平均記録や目標記録を設定させることで体カテストへの意欲をもたせた。また、自己分析することで自己の課題を見付け、課題解決の方法を考えさせたり、実践させたりした。(資料 30)

○ 小中一貫分析シートの活用

小学校低学年から中学校までの体カテストの結果(Tスコア)を記入した。9年間の記録をまとめることにより、自らの成長を実感できたり、課題を見つけたりでき、主体的に目標を設定し、体力向上への意欲につながると考える。

○ 課題克服トレーニングの実施

体カテストの分析をもとに、それぞれの課題種目を選択し、課題克服トレーニングを考えた。それを毎時間の導入で継続的に行うことで、課題克服を目指した。

資料 30 自己分析ワークシート

The worksheet is divided into three main sections: 低学年用 (Elementary School), 中学校用 (Middle School), and 高学年用 (High School). Each section includes a table for recording test results, a target setting section, and a graph for tracking progress over time.

低学年用 (Elementary School): Includes a table for recording test results (項目, 自己記録, 目標記録, 点数) and a target setting section (目標設定) with a graph showing progress from 0.1 to 0.9.

中学校用 (Middle School): Includes a table for recording test results (項目, 自己記録, 目標記録, 点数) and a target setting section (目標設定) with a graph showing progress from 0.1 to 0.9. Below this, there is a comparison table (表 1) and several line graphs for different test items: 握力 (Grip Strength), 20mシットルラン (20m Shuttle Run), 50m走 (50m Run), 立ち幅跳び (Standing Broad Jump), and ハンドボール投げ (Handball Throw).

高学年用 (High School): Includes a table for recording test results (項目, 自己記録, 目標記録, 点数) and a target setting section (目標設定) with a graph showing progress from 0.1 to 0.9.

表 1 (Table 1): A comparison table of scores for various test items across different grade levels.

項目	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	7年生	8年生	9年生
握力	22	22	22	22	22	22	22	22
20mシットルラン	22	22	22	22	22	22	22	22
50m走	22	22	22	22	22	22	22	22
立ち幅跳び	22	22	22	22	22	22	22	22
ハンドボール投げ	22	22	22	22	22	22	22	22

④ 教職員協働プロジェクト

- 指導力の向上
 - ・ 小中の連続性を見通した児童生徒の育成

【1, 2年次の取組】

ア 小中相互授業参観

各校の計画訪問や要請訪問等で相互授業参観を実施し、他校の授業を見合うことで、今後の小中一貫を通しての授業への工夫・改善を図る機会となった。(資料 31)

資料 31 小中相互授業参観の様子



イ 3校合同研修会

8月に笠原小学校区の3校の全職員が集まり合同研修会を行った。1年次は、「学力アップ」「あたたかい人間関係づくり」「体力アップ」「指導力アップ」の4つの分科会に分かれて話し合いを行った。2年次は、笠原中S Cの先生を講師に招き、カウンセリングの仕方のワークショップを行った。3校の先生が入ってのグループを作ることで、交流だけでなく情報交換の場となった。(資料 32)

資料 32 3校合同研修会



ウ ホームページ、各種たよりによる情報発信

各学校のホームページに小中一貫サイトを設け、小中一貫の交流行事を掲載し、外部への情報発信の場とした。また、各学校に小中一貫のコーナーを設置し、学校だよりや学年だよりを毎月交換し、3校の情報の共有に努めた。(資料 33)

資料 33 ホームページ、小中一貫コーナー



エ 実態に基づく重点的な保健指導

児童生徒の実態把握と望ましい生活習慣の意識化を目的として生活チェックアンケートを実施した。把握した課題（毎食後の歯磨き、十分な睡眠、100%の朝食摂取）をもとに必要な指導を3校で実施した。内容は、担任による短学活での指導、保健委員会活動を活用した啓発活動、保健だよりを活用した保護者への啓発（シリーズ化して発行）である。（資料34）

資料34 生活アンケート

生活チェックシート (中学校)

記入の仕方 一年 種 名称

① 縦の線は、10時から11時までの範囲、10時から11時の間に記入
 ② COB、11時より前記入した場合は記入を消す
 ③ 横の線は、11時から12時の範囲、11時から12時の間に記入
 ④ 横の線は、12時から13時の範囲、12時から13時の間に記入

学年・学期	実施日時			実施場所	実施者	実施内容	実施結果
	10/	11/	12/				
10/							
11/							
12/							

※ 毎日、早く寝られたか？
 ※ 朝ごはんは、毎日食べられたか？
 ※ 歯みがきは毎日できてきたか？

署名 (Oの印)

オ 給食指導の統一・連携

3校で「給食のきまり」を統一することで、小中のスムーズな移行を進めた。また、小学校の栄養教諭が中学校で栄養指導を行うなど連携を深めた。（資料35）

資料35 給食指導の様子 (笠原中)



カ 3校合同引き渡し訓練

災害発生時を想定し、同日同時刻に引き渡し訓練を実施した。地域や保護者の協力もあり、児童生徒をスムーズに引き渡すことができた。（資料36）

資料36 3校合同引き渡し訓練 (左から、笠原中、笠原小、寿小)



【3年次の取組】

キ 児童・生徒カルテの統合

生徒指導、給食・食育、保健上、特別支援等児童・生徒に関わる情報の統合を進めた。それぞれの領域ごとに情報の共有を図っていたものを1つにまとめることで事務の省力化と情報共有の効率化を目指した。(資料 37)

資料 37 児童・生徒カルテ統合版

学年	児童・生徒名	保健者が関与する領域				備考
		生徒指導	給食	保健上	特別支援	

ク 「健康タイム」の実施

3校で毎月指導すべき保健に関する内容について検討し、年間計画に定めた。その計画に基づき、毎月、担任による短時間の保健指導を実施した。発達段階に応じたワークシートを作成し、9年間を通した段階的、系統的な指導ができるようにした。(資料 38)

資料 38 健康タイム



ケ 学校事務

今年度は、事故防止の観点から、現金を扱わない取組を行った。一つ目は、保護者への教材費等の返金やスポーツ振興センター給付金を現金支給からインターネットバンキングを利用した口座振込にした。二つ目は、学年費等立替払いで購入していた物品を売掛払いで購入するように変更した。その結果、事故防止の意識が高まり、会計事務の効率化も図られた。(資料 39)

資料 39 事務共同実施



コ 笠原中学校区学校運営協議会の開催

笠原中学校区としての学校運営協議会を11月10日に笠原中学校にて開催した。各学校での、今年度や昨年度の状況や取組を報告し、中学校区としてどんなことができるのかという話し合いとなった。他の中学校区の取組を参考に、来年度は、ローテーションをしながら、各学校の授業参観をしたり、協議を行ったりしていこうとする方向性をもつことができた。(資料 40)

資料 40 学校運営協議会



7 研究の成果

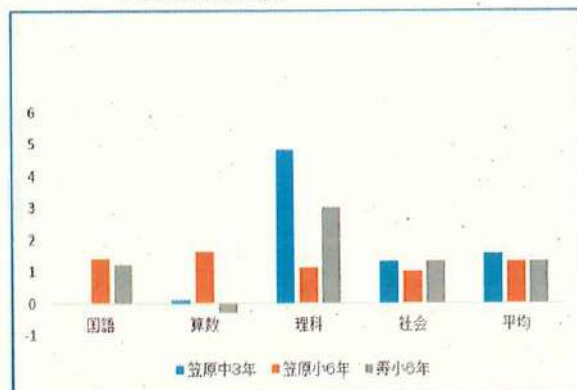
(1) 学習プロジェクト

県学力診断のためのテストH30年度からR元年度への県との平均から、県との平均の差が3校とも縮まっていることが分かる。教科ごとに「9年間で育成したい力」を小中3校の教員で共有し、それぞれの学校で目的をもって教科指導をすることができた。(資料41)

また、系統的に「9年間で育成した力」をまとめたことで、9年間でどのような児童生徒を育成するのかという目指す児童像・生徒像が明確化され、共有することができた。(別紙資料2)

さらに、小中3校で定期的な話し合いをもつことにより、それぞれの学校の共通点や相違点があり、それぞれの学校の特色を学び合い、9年間を通して児童生徒を育てるという共通した認識をもつことができたことは、大きな成果である。

資料41 県学力診断のためのテスト県平均との差の変容



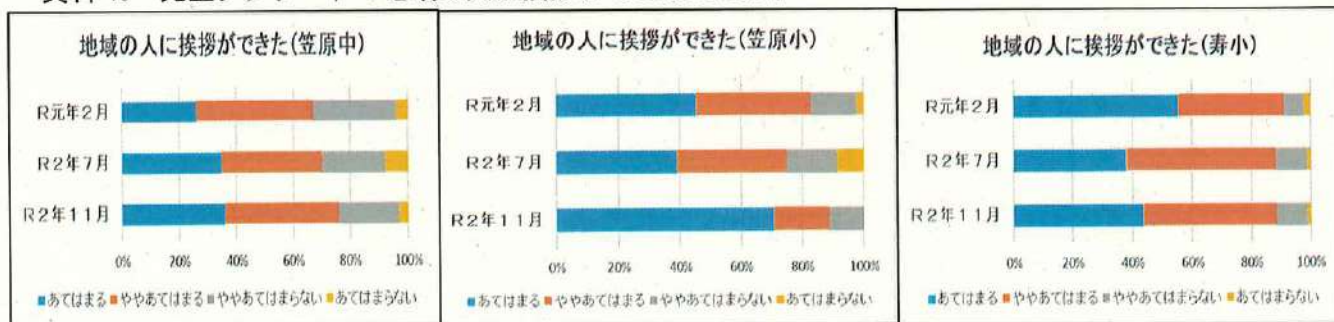
(2) 心プロジェクト

心プロジェクトでは、「各校・各学級におけるリーダーの育成」を目指し、3年次の重点として取り組んできた。Webによる各校代表によるリーダー会議を行い、「挨拶」「黙働」「一日一善」に各校でそれぞれに取り組んでいくこととした。それを受けて、各校のリーダーから、校内に議題を下ろし、各学級や委員会などで外国語の挨拶やよいことボックスなど工夫して取り組むことができた。

資料42 児童アンケート「進んで挨拶はできましたか」



資料43 児童アンケート「地域の人に挨拶ができましたか」



「進んで挨拶ができましたか」のアンケートから、「よくできた」「できた」という児童生徒がR2年2月では、笠原中学校では、70%だが、笠原小学校、寿小学校では、90%を占めている。また、R2年度7月、11月では、笠原中学校では90%、笠原小学校、寿小学校では80%となっている。今年度は、コロナウィルス感染症感染予防のため、マスクを着用したり、大声を出せなかったりしたため、若干下がってしまったと思われる。(資料42)

しかし、「地域の人に挨拶ができましたか」のアンケートでは、各校のリーダーが中心となって、校内の挨拶だけではなく、あいさつ運動への積極的な取組の効果が表れ、中学校では、80%、小学校では、どちらも90%となっている。(資料43)

挨拶だけではなく、ローテーション授業での道徳の授業の実施や、人権メッセージの取組など、3校で同じ取組を継続して実施していくことが、児童生徒のあたたかい人間関係づくりへとつながっていると考える。

(3) 体プロジェクト

今年度は、県体力テストは中止となったが、体力の向上に向けて3校で体力テストの結果を分析し、いくつかの手立てを考え、実施した。

一つ目は、トレーニングコースだけではなくランニングトレーニングを取り入れた。瞬発力や調整力だけではなく、持久力を高めることを目的とし、体育の時間の始めや持久走記録会の前に実施した。継続することで、徐々に体力がついてきたと感じたり、意欲的に友達と競い合い、体力を高めようとしたりする姿が見られた。

二つ目は、「自己分析カード」の活用と「自己体力アップトレーニング」を実施した。昨年度の体力テスト実施の結果を基に、分析カードを活用し自己分析をし、体力テストの目標を設定し、分析グラフを自分で作成することで、視覚的に自己の能力の課題に気付くことができた。中学校では、学習カードを使うことで、自分の体力について分析をするきっかけとなった。特に、県の平均値を意識して取り組む生徒が多く見られた。また、記録を掲示することで、さらに意欲的に取り組む生徒や嬉しそうにする姿も見られた。

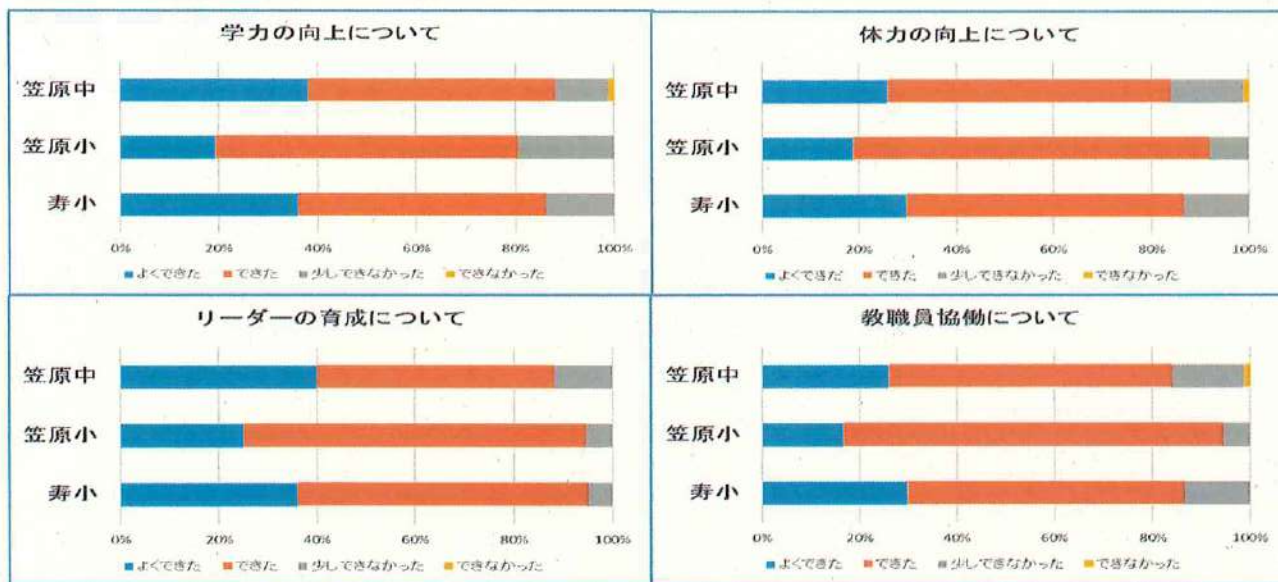
また、小学校では、持久走記録会を学校毎にケーズデンキスタジアムで実施した。6年生の陸上記録会を実施するスタジアムで走る経験を1年生からすることで、走る楽しさや、自分の目標に向かって取り組む姿勢が身に付くと考える。同じ中学校へ進む子供たちが同じ経験を重ねることで、運動に親しむ児童生徒の育成していく基盤をつくることができた。

(4) 教職員協働プロジェクト

教職員協働プロジェクトでは、今年度は、3校合同引き渡し訓練や3校合同研修会を実施することができなかったが、教科領域部員会を7月に実施したり、教科・領域毎に連絡を取り合ったりして、教科・領域ごとに取り組むことができた。今年度は、生徒指導、給食、食育、保健、特別支援など児童・生徒に関わる情報の統合を行った。このカルテを小学校から中学校へと引き継いでいくことで、より細やかな引継ぎができると考える。また、笠原中学校区での第1回学校運営協議会を実施したことで、各学校区だけではなく笠原中学校区として、地域とのつながりを大切にし、子供たちのためにできることは何かを考え、取り組んでいこうとする意識が高まった。

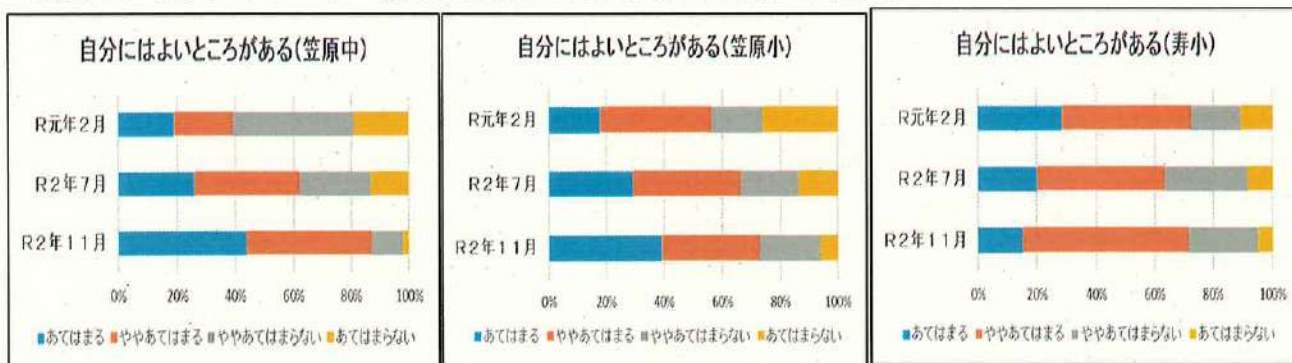
教職員への各プロジェクトへの取組についてのアンケートからは、4つのプロジェクトにおいて、「よくできた」「できた」が90%を超えている。これは、コロナ渦の中でも、3校のプロジェクト長を中心に声を掛け合って、小中一貫校としての取組を全職員で行っていくという意識が高まったからだとと思われる。(資料44)

資料44 教職員アンケート「各プロジェクトの取組について」



また、「自分によいところがありますか」のアンケートのH30年度からR2年度の比較を見ると、「よくできた」「できた」と答える児童生徒の割合が増えていることが分かる。これは、小小や小中で連携し、9年間の児童生徒の学びを意識して、系統的に実践を積み重ねてきた結果、児童生徒が、主体的に取り組み、自分のよいところを見付け、自尊感情が高まってきたからだと考える。(資料45)

資料45 児童アンケート「自分にはよいところがあると思いますか」



(5) 研究テーマについて

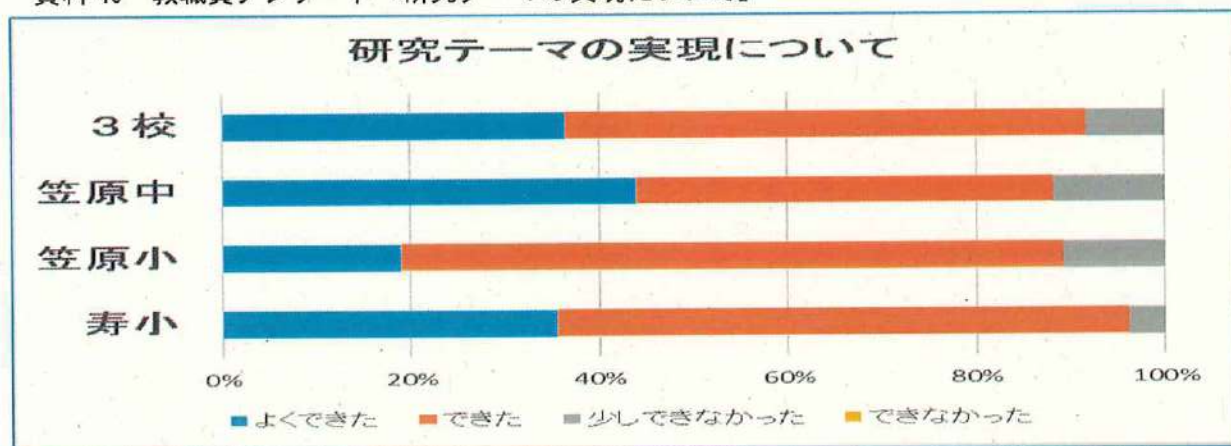
平成30年度から3年間、水戸市教育委員会研究指定を受け、研究主題「他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒の育成」のもと、笠原中学校区施設分離型小中一貫教育の関する研究を行ってきた。3年次は、コロナウィルス感染症拡大防止のために、予定していた活動ができなかったが、Webでのリーダー会議を実施することができたため、時間や移動にかかる経費を

節約し、施設分離型ならではの話合いのスタイルが確立できた。ネット環境の問題などもあるが、新しい生活様式や、GIGAスクール構想が進む中で、このような取組ができたことは、大きな一歩である。

30年度にとったアンケートより、笠原中学校区の課題は、「自己肯定感の高揚」「学力の向上」であった。これらを、学校だけではなく、地域や家庭との連携協力の中でのあたたかな人間関係づくりを通して、育んできた。3年間の研究のまとめとして、教職員に「他者と協働しながら、主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒を育成することができたか」のアンケートから、「よくできた」「できた」が3校合わせて95%である。今年度は、3年間のまとめとしての研究発表会は開催できなかったが、その中でできることを教職員がアイデアを出し合って、テーマに向かって一丸となることができたのは、施設分離型小中一貫教育校としての取組の大きな成果である。(資料46)

1年次には、教職員の顔の見える関係づくり、2年次には、学校間や地域とのつながり、リーダーの育成、3年次は9年間の学びを意識した各校のリーダーの育成を目指してきた。この3年間の取組の積み重ねを通して、研究テーマ「他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒の育成」の実現を図ることができた。

資料46 教職員アンケート「研究テーマの実現について」



8 研究の課題

- (1) 今後も、他者と協働しながら主体的に学び、目的をもって行動する児童生徒の育成を目指し、小中一貫教育を継続していくための取組の見直しや検討を毎年実施していく。
- (2) 小中、小中での一人一台のタブレット端末を活用したオンライン授業へ向けての研修、実践を行っていく。
- (3) 学習プロジェクトでは、「9年間で育成したい力」の系統表は、児童生徒の実態に合わせて、定期的に修正、改善していく。
- (4) 心プロジェクトでは、「3校合同リーダー会議」を主体的・対話的で深い学びとなるようリモートと対面をうまく組み合わせて実施していく。
- (5) 体プロジェクトでは、教職員が体力テストの結果を分析し、児童生徒の体力向上への対策をもった上で、児童生徒が主体的に自分の克服トレーニングプランを立て、目標が達成できるようにしていく。
- (6) 教職員協働プロジェクトでは、年度初めに顔合わせの部員会を開き、全職員での小中一貫教育への共通理解を図り、いつでも話し合える関係づくりをしていく。